

# BLS研修



- 1) 救急看護認定看護師 副看護師長 當田 晶子
- 2) 管理課長 西谷 悟 3) 医療安全係長 (2025年度) 荒井 美香枝
- 4) 庶務係 瀧上 徳博、岩本 桃果 5) クリティカルケア認定看護師 副看護師長 中田 健
- 7) 集中ケア認定看護師、副看護師長 新田 美喜子

BLS (Basic Life Support) とは、人が急に倒れたり、倒れている人を発見した場合、医師や救急隊が来るまでに居合わせた人が行う基本的な救命行動です。日本語では「一次救命処置」と訳されており、胸骨圧迫 (心臓マッサージ) やAEDを使用して救命することを指します。私達、医療従事者は、仕事に予測できない急変に遭遇する可能性があります。そのため、職種を問わず全ての職員がBLSの手順を理解し、実践方法を修得しておくことが必要です。当院では、2025年度に、認定看護師、医療安全管理室、管理課が協働して全職員を対象としたBLS研修を行いました。今回は、その様子をお伝えします。

研修の開始にあたり、まず、認定看護師、医療安全管理室、管理課でチームを組みました。どのように研修を進めるかチームで話し合いを重ね、管理課が職員への研修案内や参加者の名簿管理を行い、認定看護師が研修内容の検討や研修講

師を担い、さらに医療安全管理室が研修の質管理をするなどの役割分担を行い、実技を交えた1回20分の研修を企画しました。そして、短時間で効果的な研修をするために、参加者は事前にBLSの動画を視聴する、座学は要点をまとめて簡潔に学べるよう工夫しました。

また、BLSで最も重要なのは胸骨圧迫です。そこで、トレーニング用の人形を使用して、実際に胸骨圧迫を練習する時間を設けました。このトレーニング用の人形には、胸骨圧迫の速さや深さを測定し、視覚的にその効果をフィードバックする機能があります。この人形を使用することで、自分の行った胸骨圧迫が適切かどうかその場で分かり、胸骨圧迫の質を意識して練習することをねらいとしました。さらに、簡単なゲームを取り入れて参加者が自主的に参加できるよう工夫しました。

2025年9月～2026年2月の間に32回の研修を実施しました。院長、副院長、看護部長、副看





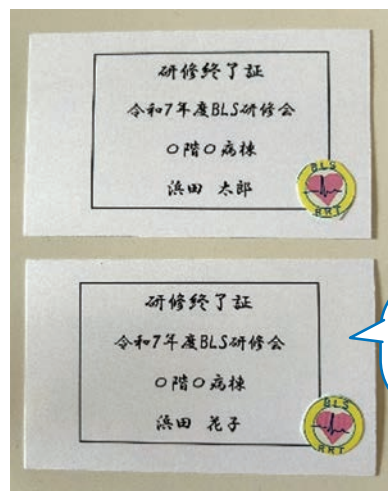
副看護部長・臨床工学技士・栄養管理室スタッフ・救命センターナース・手術室ナース  
病棟ナース・薬剤師・地域医療連携室スタッフなど多職種が参加しました

護部長をはじめ、医師、看護師、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、事務職員、看護補助者、医療クラークなど様々な職種の職員423名(受講率63%)が参加しました。研修終了後のアンケートでは、99%が研修時間は適切であった、全員がBLSの流れを理解した、96%が正しい胸骨圧迫を実践できたと回答しました。「分かりやすく、楽しく学べた」「このような研修は敷居が高く気になるけど参加が出来ないでいたが、今回参加して短時間で大事なポイントを教わった」「実際に胸骨圧迫が体験できる良い研修だった」「胸骨圧迫の感覚が掴めて自信が持てた」「ゲームが良かった」「今後もこのような研修会に積極的に参加したい」という意見がありました。真剣かつ楽しくBLSを習得できたと考えます。また、「多職種と研修できて有意義であった」という意見があり、研修に参加することで職種を超えた交流ができたと考えます。

今回、認定看護師、医療安全管理室、管理課がチームを作って取り組むことで、全職員に働きかけ、短時間で効果的な研修が出来たと考えます。何時遭遇するか分からない急変であっても医療従事者は患者を守る義務があり、すべての医療従事者にとってBLSの習得は必須の事項であると考えます。必要な時にしっかりとBLSを実践できるよう、今後も研修を継続していきたいと思ひます。



胸骨圧迫が  
上手くできれば  
そのチームの救急車が  
早く進むゲームを  
しました  
大変盛り上がりました



受講者には  
管理課が作成した  
修了書を授与しました



医師



参加者の胸骨圧迫の深さや速さを  
視覚的にフィードバックしました



熱心に取り組みました